

スーダン型ソルガムの散播密植栽培 における出芽安定法

1 技術の要約

スーダン型ソルガムの散播密植栽培では、過度の耕起を避け、播種直後に薄い覆土を行ってから、鎮圧することにより、出芽が安定します。

2 技術の内容

スーダン型ソルガムは獣害によりトウモロコシや牧草の栽培が困難な地域で栽培されていますが、出芽が不揃いな事例が見られます。そこで、出芽を安定させるためのポイントを明らかにしました。

①5月下旬は降水量が少ないため、土壌水分の低下により出芽が不安定になりやすい時期です。プラウ耕とロータリ耕（2度がけ）を組み合わせるような過度の耕起を行わないようにします。

覆土処理が出芽に及ぼす影響（平成27年）

要因	6月2日調査		6月16日調査		合計 出芽数 本/m ²	
	播種前 鎮圧	覆土	出芽数 本/m ²	露出 種子数 個/m ²		後出芽数 本/m ²
①	なし	処理	125.3	5.3	33.6	158.9
②	なし	なし	20.6	45.3	63.0	83.6
③	処理	処理	124.3	8.4	49.0	173.3
④	処理	なし	12.5	70.1	102.6	115.1

②播種直後にトラクタ後輪のタイヤ痕を削らない程度にディスクハローあるいはロータリの表層攪拌を実施して、薄い覆土（鎮圧後の平均深度が3cm程度）を行い、カルチパッカ等で鎮圧します。

播種前鎮圧は効果なし。播種後の鎮圧は全区で実施。

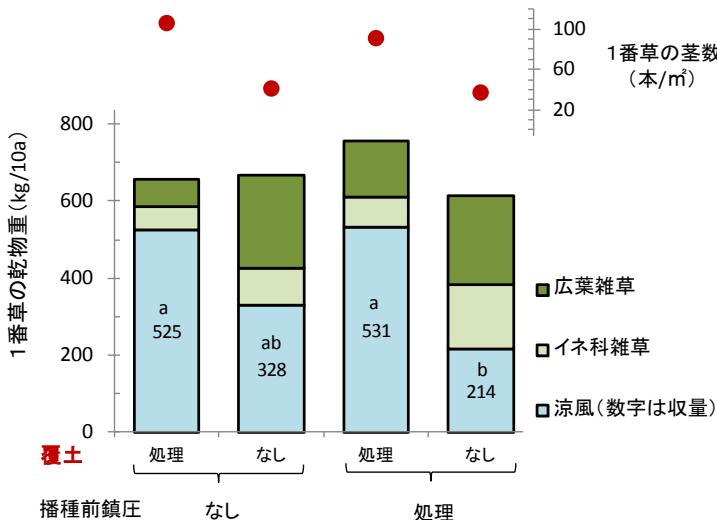


図 覆土が1番草の茎数と収量に及ぼす影響



伊那市実証ほ（薄い覆土により出芽が斉一に）